

ントスルモノナリ
按ズルニ本件ハ現下ノ國際情勢ニ稽ヘ帝國
外交ノ在外機構ヲ整備シテ其ノ事務處理ニ
便ナラシメンガ爲新ニスロヴァキア國ニ帝
國公使館ヲ設置セントスルモノニシテ別ニ
支障ノ廉ヲ認メザルニ由リ此ノ儘之ヲ可決
セラレ然ルベシト思料ス
右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

議長(原) 別ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省
略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起

立ヲ請フ

(全員起立)

議長(原) 全會一致可決セラレタリ

○

議長(原) 次ニ

朝鮮教育令中改正ノ件

臺灣教育令中改正ノ件

大正十二年勅令第三百四十三號臺灣ニ於
ケル官立公立ノ小學校又ハ公學校ノ訓導

ノ失官ノ件改正ノ件

明治四十一年勅令第四十五號樺太ニ於ケ

ル小學校ニ關スル件改正ノ件

以上四件ヲ一括シテ議題ニ供ス第一讀會ヲ

開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査報告ヲ爲サシ

ム

報告員(堀江)

謹デ此ノ四件ヲ審査シタルニ其

ノ要旨ハ次ノ如シ

第一 朝鮮教育令中改正ノ件

現行朝鮮教育令ニ依レバ朝鮮ニ於ケル初

等普通教育ハ朝鮮特殊ノ事情ニ基キ若干

ノ特例ヲ設クルノ外小學校令ニ依ルモノ

トス然ルニ今般内地ニ於テハ昭和十六年

度ヨリ小學校令ヲ改正シ小學校ヲ國民學

校ニ改ムルコトト爲リタルニ伴ヒ朝鮮ニ

在リテモ此ノ際一視同仁ノ聖旨ヲ奉體シ

教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ遵奉シテ忠良

有爲ナル國民ノ鍊成ヲ爲スコトヲ目的ト

スル朝鮮教育ノ本旨ニ鑑ミ朝鮮各般ノ文

化及經濟ノ現況ニ照シ且ハ内地トノ連絡

關係ヲモ考慮シ内地ト步調ヲ一ニシテ國
民學校制度ヲ實施スルノ必要アリ仍テ茲
ニ本件ヲ以テ朝鮮教育令中ニ改正ヲ加ヘ
初等普通教育ニ於テ小學校令ニ依ルコト
トセルヲ國民學校令ニ依ルコトニ改メ但
ダ國民學校ハ當分ノ内地ノ情況ニ依リ
其ノ修業年限ヲ六年ト爲スコトヲ得ルモ
ノトシ其ノ他朝鮮特殊ノ事情ニ依リ特例
ヲ設クルノ必要アルモノニ付テハ朝鮮總
督別段ノ定ヲ爲スヲ得ルコト尚從前ノ通

トシ關係條項中ニ所要ノ整理ヲ施シ及必
要ナル經過の規定ヲ設ケントス

第二 臺灣教育令中改正ノ件

現行臺灣教育令ニ依レバ臺灣ニ於ケル初
等普通教育ハ國語ヲ常用スル者(主トシテ
内地人)ト國語ヲ常用セザル者(主トシテ本
島人)トニ依リ其ノ機關ヲ區別シ前者ニ對
スルモノハ小學校、後者ニ對スルモノハ公
學校トシ特別ノ事情アル場合ニ限り共學
ヲ許シ又師範教育ニ於テモ右ノ制度ニ對

應シ小學校教員及公學校教員ノ兩者ヲ養
成スルコトト爲セリ然ルニ今般内地ニ於
テハ昭和十六年度ヨリ小學校令ヲ改正シ
テ國民學校制度ヲ實施セントスルニ當リ
臺灣ニ在リテモ其ノ教育ノ本旨全ク朝鮮
ト同一ナルニ鑑ミ臺灣各般ノ文化及經濟
ノ現況ニ照シ且ハ内地トノ連絡關係ヲモ
考慮シ此ノ際内地ト歩調ヲ一ニシテ同ジ
ク國民學校制度ヲ實施スルノ必要アリ就
中本島人ニ對スル初等普通教育ニ付テハ

其ノ學制ノ施行後既ニ十九年ノ歲月ヲ閱
シ内地人ニ對スル其レト遜色尠キニ至リ
其ノ間文物ノ發達顯著ニシテ國語ノ普及
生活ノ改善及民度ノ向上亦著シキモノア
リ殊ニ滿洲事變ノ勃發以來本島人ノ國民
的自覺深マリ更ニ今次事變ニ際シテハ内
臺一如奉公ノ誠ヲ捧ゲントスルノ熱意愈
々旺タルモノアリ斯カル實情ナルニ鑑ミ
臺灣統治ノ根本義ニ照シ殊ニ臺灣教育令
ハ本來内臺人ノ共學ヲ主旨トシ又朝鮮ニ

於テハ既ニ去ル昭和十三年以來初等普通
教育機關ヲ小學校ニ統合シタルニ稽ヘ此
ノ際本島人ニ對スル初等普通教育ノ機關
ヲ内地人ニ對スル其レニ統合シ齊シク之
ヲ國民學校令ニ準據スルコトト爲サント
ス仍テ茲ニ本件ヲ以テ臺灣教育令中ニ改
正ヲ加ヘ(一)國語ヲ常用スル者タルト否ト
ヲ問ハズ初等普通教育ハ國民學校令ニ依
ルコトニ改メ但ダ國民學校ハ當分ノ内地
地ノ情況ニ依リ其ノ修業年限ヲ六年ト爲

スコトヲ得ルモノトシ其ノ他臺灣特殊ノ
事情ニ依リ特例ヲ設クル必要アルモノニ
付テハ臺灣總督別段ノ定ヲ爲スヲ得ルコ
ト尚從前ノ通トシ(二)從テ國語ヲ常用セザ
ル者ニ對スル初等普通教育ノ機關タル從
前ノ公學校ニ關スル規定ハ總テ不要ト爲
ルニ由リ之ヲ削除シ(三)右ノ改正ニ伴ヒ師
範學校ニ付テモ其ノ目的、編制等ニ關シ規
定ノ改廢ヲ爲シ其ノ他必要ナル經過的規
定ヲ設ケ及措辭ノ整理ヲ爲サントス

第三 大正十二年勅令第三百四十三號臺灣

ニ於ケル官立公立ノ小學校又ハ公學

校ノ訓導ノ失官ノ件改正ノ件

現行規程ニ依レバ臺灣ニ於ケル官公立ノ

小學校又ハ公學校ノ訓導教員免許狀褫奪

ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ教員免許狀ノ失効

セル場合ニハ當然其ノ官ヲ失フモノトセ

ルガ今回臺灣ニ於ケル初等普通教育ハ國

民學校令ニ依ルコトニ改メラルルニ伴ヒ

本件ヲ以テ國民學校ノ訓導養護訓導及准

訓導ニ關シ從前ノ如キ規定ヲ設ケントス

第四 明治四十一年勅令第四十五號樺太ニ

於ケル小學校ニ關スル件改正ノ件

樺太ニ於ケル初等普通教育ノ現行制度ハ

明治四十一年勅令第四十五號ノ規程ニ依

リ若干ノ特例ヲ除クノ外内地ト同一ノ制

度ヲ採リ來レルガ今回内地ニ於テハ小學

校令改正セラレ國民學校制度實施セラレ

ントスルニ當リ住民ノ大部分ガ内地人ニ

シテ其ノ民度亦殆ド内地ニ劣ル所ナキ樺

太ニ於テハ初等普通教育ニ付内地ト別個
ノ制度ヲ採ルノ必要ナク兒童就學ノ成績
及市町村財政ノ現況等諸般ノ事情ニ徴シ
兒童ノ就學義務年限ヲ延長スルモ何等支
障ナキノミナラズ國民學校制度ノ企圖ス
ル教學ノ刷新ハ當然樺太ニ對シテモ要望
セラルベキ所ナリ仍テ國民學校制度ノ大
綱ヲ樺太ニ適用センガ爲前述ノ勅令ヲ改
正シ新ニ樺太國民學校令ヲ制定セントス
ルモノニシテ其ノ要旨凡ソ左ノ如シ

(一) 樺太ニ於ケル國民學校ニ關シテハ特修

科、學校組合、私立學校ニ關スル規定内地

ノ地方制度ニ伴フ規定及以下ニ列擧ス

ル本案ノ特別規定ニ相當スル規定ヲ除

クノ外國民學校令ノ各規定ニ依ルコト

トシ樺太特殊ノ事情ニ依リ特例ヲ設ク

ル必要アルモノニ付テハ樺太廳長官拓

務大臣ノ許可ヲ受ケ別段ノ定ヲ爲スコ

トヲ得ルモノトス

(二) 本案ハ市町村ノ一部ニ付特定ノ事情ア

ル場合ニ於テ兒童教育事務ノ委託ヲ認
ムルコトトシ市町村ノ此ノ委託ニ應ズ
ルノ義務及委託ニ對スル報償等ノ決定
方法ニ付規定ヲ設ケ其ノ委託ヲ不能ト
スルトキノ市町村ノ國民學校設置ノ義
務免除及兒童保護者ノ義務ノ免除ニ付
規定ス

(三) 本案ハ樺太ニ於ケル國民學校ノ訓導准
訓導及養護訓導ハ國民學校令ニ依ル國
民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓

導免許狀ヲ有スルトキノ外樺太國民學
校教員免許狀又ハ樺太國民學校養護訓
導免許狀ヲ有スルモノタルベキコトト
シ教員免許狀ノ授與ニ關シ規定ヲ設ク
(四) 本案ハ國民學校ニ關スル教育事務ノ爲
市町村ニ於テ學務委員ヲ置クベキコト
ヲ定ム

(五) 本案ハ國民學校ノ經費及兒童教育事務
委託ニ關スル經費ヲ原則トシテ市町村
ノ負擔トスル外國民學校職員ノ俸給ヲ

國庫ノ負擔トシ其ノ旅費ニ付テモ其ノ
全部又ハ一部ヲ國庫ノ負擔ト爲スコト
ヲ得ル旨ヲ定ム

(六) 本案ノ勅令ハ昭和十六年四月一日ヨリ
之ヲ施行スルモノトシ兒童ノ就學期間
ノ特則其ノ他必要ナル經過的規定ヲ設
ク

按ズルニ本案ノ諸件ハ今般内地ニ於テ初等
普通教育ノ刷新ヲ圖ル爲國民學校制度ヲ實
施セントスルニ際シ朝鮮臺灣及樺太ニ於テ

モ之ニ對應シテ其ノ初等普通教育ニ大體内
地ノ新制度ヲ採用シ尚臺灣ニ於テハ之ヲ機
トシ統治ノ必要上本島人ニ對スル初等普通
教育機關ヲ内地人ニ對スル其レニ統合スル
ノ措置ヲ併セ講ゼントスルモノニシテ孰レ
モ其ノ趣旨ニ於テ之ヲ是認シ得ベク其ノ規
程ノ條項亦別ニ支障ノ廉アルヲ認メズ仍テ
本案ハ總テ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシ
ト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

二十五番 石塚 政府ハ來ル四月一日ヲ期シ初
等普通教育ニ付テ内外地ヲ通ジ大體ニ於テ
同一制度ヲ設ケントセラルルハ多年御研究
ノ結果ニ基クモノト信ジ茲ニ賛意ヲ表ス此
ノ上ハ制度ノ運用ニ付テ慎重御考慮ヲ煩シ
タシ凡ソ何事モ之ヲ一定ノ規準ニ從ハシメ
ントスルニハ或ハ足踏ヲ爲サシメ或ハ駄足
ヲ爲サシメ以テ一線ニ並行セシムルノ要ア
リ而シテ其ノ間ニ多少ノ無理ノ生ズルコト
ナキカラ本員ハ痛ク憂慮スルモノナリ樺太

ニ付テハ總テノ制度概ネ内地同様ナルヲ以
テ疑問ノ余地ナキモ朝鮮臺灣ニ付テハ之ト
稍々趣ヲ異ニス而シテ朝鮮ニ付テハ先年來
既ニ内鮮共學ノ原則ヲ實施シ來レルモ臺灣
ニ於テハ公學校尚存續シ今回之ヲ國民學校
ニ統一セントスルモノナルヲ以テ茲ニ二段
ノ進歩ヲ爲スコトト爲ルナリ國語ヲ常用ス
ル者トセザル者トノ區別ヲ撤廢シ教育ノ當
初ヨリ專ラ國語ニ由ラシメントスルニ付テ
ハ無理ノ點ナキカ之ヲ支障ナシトスル確ク

ル御説明ヲ承リタシ次ニ氏名ノ變更ハ當人
ノ願出ニ由リ許可セラルル制度ニシテ内地
ニ於テハ濫リニ許サレザル所ナルニ朝鮮臺
灣ニ於テハ或ハ兒童入學ニ際シ内地流ノ氏
名ニ改稱セザレバ入學ヲ許可セズトシ實際
上之ヲ強制スルト同様ノ趣ナルヤニ聞ク尚
朝鮮臺灣ニ於ケル新聞紙ラヂオ等言論ノ取
締ニ付テモ兎角ノ非難ヲ聞ク斯ノ如キハ新
附ノ民ヲ統治スル上ニ於テ適當ナル力多大
ノ疑問アリ兒童入學ニ對シ果シテ改姓ヲ強

要スルガ如キコトアリヤ否ヤ併セテ伺ヒタ
シ

八番(秋田) 今回内地ヲ通ジ初等普通教育ヲ

國民學校令ヲ以テ一貫セントスル建前ニ付
テハ御賛成ヲ得タルモ其ノ運用ニ付充分ニ
注意ヲ加フベシトセララルハ尤ナル御意見
ナリ外地初等普通教育ノ實施ニ付テハ充分
ニ注意シ御趣意ニ添フコトト致シタシ御質
問ノ第一點ニ付テ今回臺灣ノ初等普通教育
機關ハ之ヲ一率ナラシメントスルモノナル

ガ既存ノ學校ニ付テハ充分沿革ヲ重シ現狀
ヲ維持スルコトヲ原則トスベシ内地人兒童
ノ多ク入學スル國民學校ト本島人兒童ノ多
ク入學スル國民學校トハ事實上區別ヲ生ズ
ベク本島人ノ兒童教育ニ付テハ其ノ生活ノ
環境風俗習慣等内地人ト趣ヲ異ニスルヲ以
テ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ臺灣統治ノ根本精神
ニ悖ルコトナキヤウ留意スベシ而シテ此ノ
點ヲ律スル爲新ニ總督府令ヲ以テ特段ノ規
則ヲ制定シ教科ノ課程授業ノ時間等ヲ定メ

主トシテ本島人ノ入學スル學校ニ於テハ修
身國語ノ時間ヲ多クシ些カモ無理ヲ伴ハ
シメズ滑カニ教育ヲ實施シ延テハ統治ノ上
ニ心配ノナキヤウ致ス所存ナリ第二點ニ付
テ朝鮮ニ於テハ姓ヲ存スルノミナリシガ昨
年二月氏ノ制度ヲ創始シ本人ノ希望ニ由リ
内地人式ノ氏ヲ設定スルコトヲ許シ臺灣ニ
於テハ本來氏ノ制度ハアリタルガ曩ニ戸口
規則ヲ以テ内地人式ノ氏ニ改ムルコトヲ認
メタリ其ノ孰レニ在リテモ統治ノ實情及民

ノ希望ニ應ゼントスル趣旨ニ出デタルモノ
ニシテ之ヲ強制スルガ如キハ統治ノ本旨ニ
沿ハザルモノナリ而ルニ實情ニ於テハ必ズ
シモ非難ノ聲ナシトセズ今後ハ些カモ無理
ヲ生ゼシムルコトナキヤウ注意ヲ加フベシ
但シ臺灣ニ於テハ氏ノ變更ヲ爲シタル事例
未ダ千百未滿ニシテ朝鮮ニ於ケルトハ稍々
趣ヲ異ニス何レニスルモ國民學校令施行ニ
伴ヒ強制的ニ氏ヲ設定シ又ハ變更セシムル
ガ如キコトハ斷ジテナカラシムベシ尚朝鮮

臺灣ニ於ケル新聞ラヂオノ取締ニ付テモ充
分注意ヲ加ヘ民ヲシテ怨嗟ノ聲ヲ放タシム
ルコトナキヤウ戒心スベシ

二十五番(石塚)

御説明ニ依リ大體諒承セリ朝

鮮人ニシテ改氏名ニ反對スルモノハ多ク上
層ノ者ニシテ下層者ハ寧口之ヲ歡ブモノノ
如ク現ニ内地ニ居住スル下層者中ニハ松平
藤原等ノ氏ヲ稱フル者多シ此ノ如キハ相當
ノ取締アリテ然ルベキモノト思料ス併セテ
茲ニ希望ヲ述ブ

議長(原) 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省
略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起
立ヲ請フ

(全員起立)

議長(原) 全會一致可決セラレタリ
本日ハ之ニテ閉會ス
聖上入御

(午前十一時閉會)

議長 原 素道

書記官長 堀江 幸雄

書記官

諸橋 棗
高辻 正巳